

# 令和5年度 学校自己評価システムシート (私立 松栄学園高等学校)

目指す学校像	入学した生徒が、学習を継続的に進められ、卒業後の出口を確かなものにする学校
--------	---------------------------------------

重点目標	1 学習継続率、卒業率の維持・向上を目指す取組みの工夫をする。 2 卒業後の進路に目を向けさせ、進路決定サポートを充実させる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	名
	事務局(教職員)	4名

学校自己評価							
年度目標				令和5年度評価(5月30日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位制による通信制高校というシステムの中では、入学した生徒の年次が下がるほど、将来の進路に対する意欲が希薄なため、学習継続率が下がっている。結果として単位未修得で卒業がなくなる生徒もいる。そこで、生徒にとって学習が継続でき、高校の卒業率を上げることを第一の重点目標とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信制の根幹であるレポートの提出率を上げ維持する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が意欲的に取り組めるレポート問題の工夫をし、改訂を進める。</li> <li>提出率の傾向を分析し原因把握する。</li> <li>生徒に直接声を掛けることで、レポート提出意欲を喚起する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書改訂年度ごとに合わせたレポートの質、量の検討と問題の見直し</li> <li>レポート提出率の分析と把握(レポート管理システムによる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次提出率 70.4% (前年 65.7%)</li> <li>2年次提出率 75.7% (前年 59.3%)</li> <li>3年次提出率 84.2% (前年 60.5%)</li> <li>全体提出率 75.1% (前年 64.9%)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度改訂した科目のレポート内容については、多くの科目で問題なく取り組んでいた。</li> <li>全体としては、昨年度よりも提出率が高くなった。次年度に改訂が行われる関係で、無料履修制度が適用されない科目が多かったことも影響したと考えられる。</li> <li>提出状況を見ると、昨年と比べ1年生の提出率が低い。特に「数学」の教科は後期に提出する生徒が多く、苦手科目を後回しにしてしまう生徒が一定数いることが考えられる。そのため、レポートフォローコースの充実が必要だと考える。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位制による通信制高校というシステムの中では、入学した生徒の年次が下がるほど、将来の進路に対する意欲が希薄なため、学習継続率が下がっている。結果として単位未修得で卒業がなくなる生徒もいる。そこで、生徒にとって学習が継続でき、高校の卒業率を上げることを第一の重点目標とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接授業であるスクーリングの出席率を上げることで、単位修得率を上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクーリング会場オープン制(会場自由受講)、視聴覚教具等の活用による面接授業時間の減免。学習の効率化を図るための工夫をする。</li> <li>特別活動の多様化とその工夫を行う。</li> <li>一部の面接授業では、タブレットやスクリーンを用いて行うことで、より分かりやすくまた、生徒が取り組みやすい工夫を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの学校行事を実施し、面接授業時間の減免機会を確保。</li> <li>体育の単位修得率分析と把握(レポート管理システムによる)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育 a 単位修得率 46.3% (前年 45.4%)</li> <li>体育 b 単位修得率 43.6% (前年 47.6%)</li> <li>体育 c 単位修得率 40.6% (前年 50.4%)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>会場自由受講の励めを強化し、スクーリングオープン制度をリニューアル(平成20年度)。その後、利用者が増え一人一人が計画的に学習を進めることができています。</li> <li>校内外問わず、多くの行事を実施できた。行事に対する生徒たちの姿勢も前向きであり、学校生活を充実させることができた。</li> <li>本年度から新たに越谷レイクタウン分校の運営が開始し、それに伴い同施設屋上の人工芝グラウンドと1階の屋内温水プールでの体育実技も実施が始まった。予想よりも参加者数が少なかったのが課題となった。生徒の認知度が低いことや、週1日午前中の実施のみになったことなどが参加者数が伸びなかった要因として考えられるため、今後は校内掲示物などで実施の様子を公開したり、生徒がより参加しやすい曜日や時間帯に変更していくことが改善策として挙げられる。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位制による通信制高校というシステムの中では、入学した生徒の年次が下がるほど、将来の進路に対する意欲が希薄なため、学習継続率が下がっている。結果として単位未修得で卒業がなくなる生徒もいる。そこで、生徒にとって学習が継続でき、高校の卒業率を上げることを第一の重点目標とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進級を目指すための進級時に行う履修登録者の率を上げる。</li> <li>履修状況を把握し、計画的に単位修得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習継続意欲を喚起するためのMタイムズ等広報紙の活用と生徒への直接的なアドバイスをする。</li> <li>履修状況照会システムの導入、及びその利用方法と活用について周知、アドバイスする。</li> <li>ホームページを随時リニューアルする。</li> <li>定期的なメール配信を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できる通信による個人学習状況の現況確認と学習意欲喚起への助言。</li> <li>Mタイムズやメール配信(27年度より)による学校生活全体の周知徹底。</li> <li>メールリスト登録率分析と向上に向けての取り組み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話やパソコンによる履修状況照会システムの積極的な活用の推進(生徒自己評価による利用率は高い)</li> <li>メール配信登録は任意であるが、入学ガイダンス時にその必要性を理解してもらうことで高い登録率を確保できていると判断する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も定期的に学習が止まっている生徒へ直接連絡をしていく必要がある。並行して、通信制で求められる学習の「自己管理」は失わせないよう注意すべきである。また、学校外の活動が忙しい生徒について、連絡することで学校の存在を忘れないように意識付ける必要である。その中で、学習再開につなげていくことができた生徒も何人かいたことは非常に良かった。</li> <li>履修登録率が全体で92%であり、ほとんどの生徒が学習を継続することができた。</li> <li>積極的にシステムを活用してもらうため、ログインIDやパスワードを分かりやすく改善した。</li> <li>何らかの事情でメール配信ができなくなってしまった生徒は合わせて学習が止まっている傾向が見られる。学習の継続に相互の関係があることを考えると、配信ができなくなってしまった生徒への早急なアプローチと継続した配信、新入学生の高い登録率はこれらも意識していきたい。</li> </ul>

学校関係者評価
実施日 令和6年5月30日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>各年次、そして全体の提出率が上がったことは評価できる。令和4年度以降、教科書改訂に伴うレポートの変更が順次行われていくが、より生徒の実態に沿いながらも学習効果のある問題作成を行っていただきたい。また、ただ提出率にのみ焦点を当てるのではなく、添削後に正解が少なかったレポートのやり直しの徹底など、提出後の対応にも力を入れ続けてもらいたい。</p> <p>出席率の向上につながる取り組みを今後も継続して行っていただきたい。しかし、近年入学者数が大幅に増えている状況の中において、オープン制度については検討が必要な点も少なくないと思われる。単に制度が濫用されることなく、まずは自分のコースで授業を終えられるように進めさせ、あくまで救済としてオープンが存在するような仕組みづくりをして行っていただきたい。</p> <p>高い履修登録率からも、現在の学校の取り組みが生徒の学習継続に適切につながっていると考えられ評価できる。生徒が自己管理できるシステムを維持しつつも、何かあれば気軽に学校を頼り質問や相談ができる関係性を築くため、日々の声掛けや会話など直接的なアプローチにも力を入れ続けてもらいたい。また、必要に応じて保護者への連絡もきちんと行い、信頼関係の構築や連携に努めて行っていただきたい。</p>

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価
年 度 目 標				令和5年度評価 ( 5 月 3 0 日 現 在 )			実 施 日 令 和 6 年 5 月 3 0 日
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信制というシステムのため、限られたスクーリング（面接授業）の時間の枠で、生徒の進路選択に対する考え方や進路の方向性を把握することがなかなか難しく、卒業直前まで進路未定という生徒も多いのが現状である。そこで、生徒が進路の方向性を見だし、進路選択の意欲を喚起し、高校卒業後の出口を確かなものにするためのサポートの充実を第二の重点目標とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職希望者の内定率を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職希望者の把握を随時行い、相談体制の充実を図る。</li> <li>就職について、ホームページの充実を図る。</li> <li>段階的な就職指導を行うことにより、就職することへの意識の充実化を図る。</li> <li>ハローワークと就職サポートを支援する企業との連携を積極的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職希望者への段階的指導を徹底、リスト化し、全校舎共通の指導を行う</li> <li>生徒の適性に応じた準備を進め、就職内定率の向上を目指す</li> <li>就職希望者に対する就職内定率の分析把握を行い、問題を見直す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人に対する段階的な指導を、全校舎共通で確実に行うことができた。一方、学校紹介以外で行動していた生徒の就職希望者が残ってしまった部分があった。</li> <li>ハローワークや合同企業説明会の活用により、就職内定を決めることができた。</li> <li>就職内定率 88.71% (前年 90.83%)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職希望者へのサポートや呼びかけを積極的に行い、早い段階から就職意識を持たせる。また、ハローワークや企業と連携し、就職先の選定を効率よく行う必要がある。また、就職先が決定しても離職してしまう生徒もいるため、ミスマッチを少なくする工夫も必要である。</li> <li>次年度からは学校に送られてきた求人をスマホやパソコンでも簡単に確認できるシステムを導入し、求人を探しやすくする予定である。また、ミスマッチを少なくするために、会社見学を積極的に行い、より詳しく仕事内容を質問するように生徒に指導していくようにする。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験内容が多様化し、レベルも変化していくとなると、教員の指導もよりワンパターンでは通用しなくなっていく。教員個人の指導力の向上もそうだが、教員間による指導力に差が出ることがないように、より指導方法の共有に努めてもらいたい。校内模試の導入は、一般入試を考える生徒に対して学校ができる範囲でのアプローチとなり、また進学を希望する生徒全体にとっても志望校を検討する際の参考資料にもなるため、とても良い取り組みであり、今後も継続してもらいたい。また、より難易度の高い入試方法や学校を志望する場合、学校側の指導方法を追求するだけでなく、外部（塾や予備校等）に頼る必要性を早期からしっかりと伝えることも大切であると考え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学、短期大学等上級学校の進学者内定率を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の進路状況を把握する。</li> <li>進路指導室を充実させ、相談活動の活性化を図る。</li> <li>長期休業期間の相談体制の充実を図る。</li> <li>進路選択に関する多様な情報の収集と生徒への提供を充実させる。</li> <li>進学について、ホームページの充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校種ごとにOC情報をこまめに更新し、生徒へ周知徹底を図る。</li> <li>生徒の適性に応じた準備を進め、進学内定率の向上を目指す</li> <li>進学希望者に対する内定率の分析把握を行い、問題を見直す。</li> <li>模試（河合模試）を学校実施し、一般入試で大学受験する生徒、または検討中の生徒が自分の学力を把握する機会を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路希望調査の実施により、生徒の志望校を早期に把握することができ、具体的な進路指導を展開することができた。</li> <li>模試の実施によって進学を志している生徒を早期に把握し、適切な指導を行うことができた。また、各生徒の学力や志望校について目標と現状を共有し、指導に役立てることができた。</li> <li>進学内定率 88.34% (前年 81.43%)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度から実施した校内模試は、各生徒の進学指導の方針などを定めるにあたって非常に有意義であったように感じるが、まだまだ駆け込みで相談してくる生徒が多い現状がある。毎年継続して実施していくことで校内模試の知名度を高め、必要な生徒が受験してくれるような働きかけが必要である。</li> <li>推薦入試や総合型入試の試験内容も年々難易度が高まっており、既存の面接のみの形式では一筋縄でいかないような学校も増えた。単なる面接指導にとどまらず、各校特有の試験に対して対応していけるような進路指導が必要である。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路希望調査票を送り、未定者に関しては進路ガイダンスに参加するように伝える。</li> <li>適性に応じ、進路への意欲付けや進路選択のアドバイスをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校卒業後の出口を確保し、進路未決定者を減らす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路希望調査票を送り、未定者に関しては進路ガイダンスに参加するように伝える。</li> <li>適性に応じ、進路への意欲付けや進路選択のアドバイスをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学及び就職ガイダンスを定期的実施し、進路未決定者（決まっていな生徒・決める気がない生徒）も参加するよう誘導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適性検査実施状況未実施（前年 137 人）</li> <li>オープンキャンパスや体験入学への参加指導を進める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路未決定者は減少を継続している。さらに良い結果を出していくためには、生徒への早めのアプローチが大切である。2学期制の本校では、夏休みに入る前の前期中に積極的に声を掛けていく必要がある。進路未決定者でも、特に進路に関しての意識付けが全くできていない生徒がいないよう、確実に対応すべきである。</li> <li>適性検査は、今年度から総合的な探究の時間に係るスクーリングにおいて実施しないことにした。次年度含め、今後の実施については現状予定していない。</li> </ul>

前年度よりやや下がったとはいえ、高い内定率を保っていることは評価できる。今後も丁寧な指導や指導内容の工夫を継続して心掛けてもらいたい。また、内定率だけでなくその後の状況把握（継続 or 退職）を行い、ミスマッチをより未然に防げるような指導もしていってほしい。

試験内容が多様化し、レベルも変化していくとなると、教員の指導もよりワンパターンでは通用しなくなっていく。教員個人の指導力の向上もそうだが、教員間による指導力に差が出ることがないように、より指導方法の共有に努めてもらいたい。校内模試の導入は、一般入試を考える生徒に対して学校ができる範囲でのアプローチとなり、また進学を希望する生徒全体にとっても志望校を検討する際の参考資料にもなるため、とても良い取り組みであり、今後も継続してもらいたい。また、より難易度の高い入試方法や学校を志望する場合、学校側の指導方法を追求するだけでなく、外部（塾や予備校等）に頼る必要性を早期からしっかりと伝えることも大切であると考え

未決定者の割合は少ないに越したことはないが、決定することのみに重きを置くような指導にはならないようにしてほしい。生徒の状況、保護者の意見等を踏まえた上で現状未決定が最善とされる場合もあると思うので、その場合は、未決定なりに卒業後どのようなステップを踏んでいくのが望ましいかのアドバイスをすることや、生徒と保護者間での共通理解を図ることをしてほしい。